



標準施工要領書

【内装用壁・天井パネリング材】

標準施工要領書 【内装用壁・天井パネリング材】

施工前の準備

施工前の注意点

- ・製品の仕様(サイズ等)、数量に間違いがないことを確認してください。
- ・製品に瑕疵がないことを確認してください。
- ・保管の際は、直射日光や雨が当たる場所は避けてください。
また保管の際は立てかけずに平置きにしてください。
- ・特別なご指定がない限り、製品は不燃、準不燃、難燃の認定品ではありません。

使用する接着剤

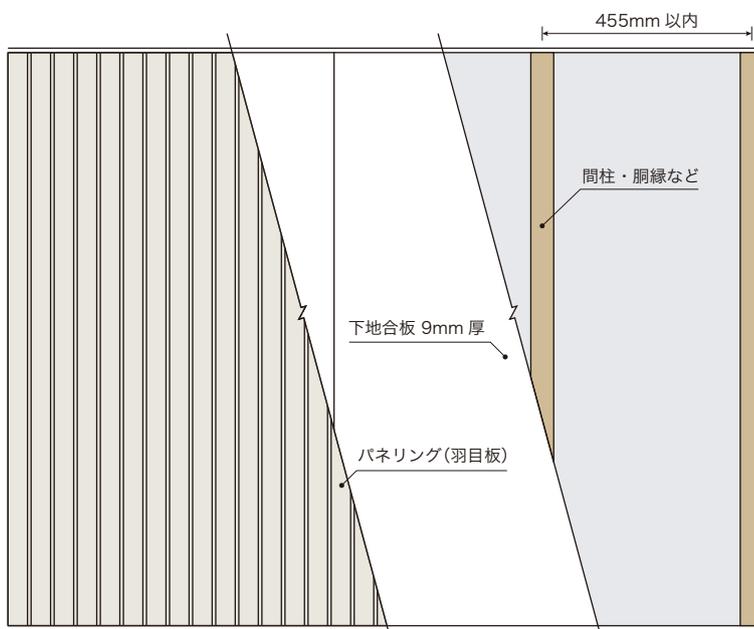
○推奨接着剤：コニシ(株) 変成シリコン樹脂系「MPX-1」同等品

使用する釘

- ・施工には板厚の2.5倍以上の長さのステープルあるいはスクリーナー釘を使用してください。

下地の確認

- ・木下地(柱・間柱・胴縁など)や鋼製スタッドを303～455mmのピッチで施工してください。
- ・木下地の場合は、必ず十分な乾燥が施された人工乾燥材を使用してください。
- ・下地材の上に厚み9mm以上の合板を捨て貼りしてください。
- ・下地に不陸やすき間のないように注意してください。
- ・MDFやHDF材は下地材料としては使用できません。

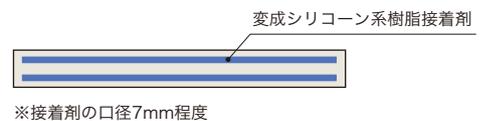


施工の手順

- ・施工の前に仮並べを行い、色合いのバランスを確認してください。
またその際に製品に瑕疵がないか確認してください。
- ・合板の目地とパネリング材の目地が重ならないように割付けしてください。
- ・施工は接着剤と釘を併用して行います。

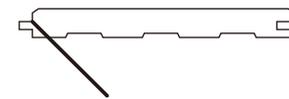
- ・「変成シリコーン樹脂系接着剤(コニシ MPX-1 同等品)」を使用する場合、接着剤の押し出し口の直径は 7mm 程度とし、パネリング材の裏側に長さ方向と平行に 2 本、ビード状(線状)に塗布してください。【図 1】

【図1】 接着剤の塗布位置 (製品裏面)

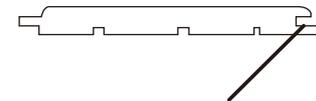


- ・接着剤が実部分に入らないように注意してください。
- ・釘打ちは右記の通り、通常の本実形状のものは雄実側から、本実目透かし形状(雌実の下端が長い場合)のものは雌実側から 45 度の角度を目安に斜めに釘を打ち込んでください。
- ・実を破損させないように注意して施工してください。

【本実形状】



【本実目透かし形状】



- ・壁には 300mm 以内、天井には 150mm 以内のピッチで釘打ちを行ってください。
- ・施工後に湿度の影響により木材は伸縮します。
パネリング材は強く打ち込み過ぎないように注意して施工してください。
- ・エンドマッチ加工(小口の本実加工)は施されておりません。
ジョイント部は必要に応じて目透かしや面取り処理などを行ってください。
- ・壁際は 5mm 程度のクリアランスを確保し、クリアランスは廻り縁や見切材料を使用して目立たないようにしてください。

施工後

- ・養生は露出部がないように注意してください。露出部分だけ変色する可能性があります。
- ・養生テープをパネリング材に直接貼ることはできません。

